News Letter
発行　2010年11月

遊文通信 VOl.05

本と読者をつなぐもの── 装丁

Wikiによると、「装丁とは、一般的には本を綴じて表紙などをつける作業を指す。広義には、カバー、表紙、見返し、扉、帯…のデザイン、また製本材料の選択までを含めた、造本の一連の工程またはその意匠を意味する」とあります。つまり、書物の「外装」を（美しく）仕上げるデザイン技術のことです。

デザイナーの世界で「ブックデザイン」として位置づけられる場合は、この「外装」にさらに「本文」を含み、内容にふさわしい本文組の体裁まで含めたトータルなデザインを追求します。「造本」と呼ばれます。

書店にて本を購入する際にきっかけとなり、まず目に飛び込んでくるのは見た目の装丁でしょう。本の中身より装丁の印象、美しさなどで購入される方も多いはず。それだけ視覚的に飛び込んでくるインパクトは重要な部分でもあります。

文庫本『蟹工船』が大当たりして蟹工船ブームまで捲き起こしたのは、表紙に劇画タッチのデザインを採用したことが大きいと言われ、その後も古典作品が同じ路線で続々とリメイクされています。最近では「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら」が「もしドラ」現象を巻きおこし、100万部を突破しました。

装丁のリーディングパーソンとしてファンの多い、平野甲賀は「装丁が本と読者をつなぐんじゃない。本と読者をつなぐのは、あくまでもその本の中身だと思う。装丁はちょっとしたサービス。ぼくができることといったら、その出版社がある感じをもって本を出しつづけている──その動きをサザナミみたいに、できるだけ気持ちよく表現していくことぐらいじゃないかな」と謙虚に語っていますが、当世、装丁が占める役割はますます大きくなってきているようです。

本の魅力を最大限にアピール

遊文舎もこの装丁、造本を強みの一つとしています。最初のラフ案は、デザイナー２～３人が競作します。本の中身をできるだけ理解し、自分なりの方向性とコンセプトを決定します。作品の意図をいかにイメージしてビジュアル化するかが勝負です。

最初からデザイナーが著者・編集者・出版社と直接打合せする場合もありますが、たいていは間に営業マンが入り、クライアントの意図を的確に伝えます。営業マンにもデザイン的な感性が必要です。

紙の選定も印刷物ならではの大事な要素。手にした時の手触り感を大切にして、膨大な特殊紙のなかから選びます。

デジタル時代になり、誰もがパソコン上でビジュアルを確認できるようになりましたが、美術的な知識、センスはもちろんのことIllustratorや Photoshopといったアプリケーション能力、そしてなによりも活字の知識などがあって初めてデザイナーと言えます。

商品としての本も売れなければ意味がありません。私たちは商品の魅力を最大限にアピールし、売れる形にすることがデザイナーの使命だと考えて、日々切磋琢磨し、おかげさまで国内のいろんな賞を頂戴しています。

平野甲賀（ひらの こうが）
昭和13年７月５日朝鮮京城生まれ。武蔵野美術学校（現武蔵野美大）在学中の昭和35年日宣美展で特選。高島屋勤務ののち39年フリー。
書き文字による装丁で知られる。59年講談社出版文化賞ブック・デザイン賞。著作に作品集「平野甲賀―装幀の本」「僕の描き文字」など。

twitter
最短3時間で印刷！すぐ〜るdot.com
@sugusurucom
http://twitter.com/sugusurucom

栄光の架け橋 第5回

第５回は㈱青山社（せいざんしゃ）にお伺いしました。
いつもエネルギッシュな林田社長に
お話をお聞きしました。

── 青山社についてお聞きしたいのですが…

私ども青山社は、仏教関連の書籍やお経本、施本などを中心に制作し、主に全国伝統仏教の御寺院様及び僧侶様へカタログにて案内させていただいている企業です。

── いま特に力を入れられている事は何ですか

昨今の社会事情により、仏教界もIT化が急速に進んでおり、お寺の檀家管理や会計管理などは多数IT化されています。今後は、出版業と併用してIT分野にも取り組んでいきたいと思っております。

── 将来の青山社についてはどのようにお考えですか

企業としての本質である売上や利益を追求していくのはもちろん大切なことですが、去年より今年、今年より来年と、常に一歩先を見据え、社員全員が幸せや豊かさを感じられるような企業をめざして歩んでいきたいと思います。

── 突然ですが、遊文舎の印象はどうでしょうか

十年一昔といわれた時代から、昨今は一年一昔といえるほど、移り変わりの流れが速く、少しでも油断すれば、あっという間に取り残されていく時代。特に印刷業界においては、今後どのような方向で革新的に変化していくのか、なかなか読めない中で、貴社の、常に新しいことを吸収し取り組んでいく姿勢は本当にすばらしいと思います。

── ありがとうございます。最後に何か一言お願いします

近年、メディア業界に急速に新しい波が押し寄せている中で、我々のような小さな出版社は、今後、特にその分野への柔軟性と対応力が求められる時代がやってくると思われます。今後とも今まで以上に貴社よりご指導ご教示いただき、共に新しい時代へと進んで参りたいと思います。

（聞き手：わーくん）

㈱青山社　http://www.seizansha.com/

だーくんの 趣味を語れば！ Level.5

僕、『だーくん』の趣味はゲーム。
というわけで、今までに夢中になったゲームの思い出なんかをなんとはなしに書いていこうと思います。

急に寒くなってきましたね。皆様、風邪にはお気をつけ下さい。
世間では電子書籍が騒がれている今、紹介するソフトはこれです。
「かまいたちの夜」

サウンドノベルと呼ばれるジャンルで、小説気分で殺人事件の犯人を推理するゲームなのですが、描写が恐ろしいことこの上ないです。荒い画質がさらに恐ろしさを倍増させてますね。

要所要所に選択肢が出てきて、それによってエンディングが変わるわけですが、もちろんバッドエンディングの方が多いです。リアルに痛そうなのもあるわけです。トラウマになって今でも思い出すようなのもあります。

今では「3」まで発売されているようです。興味のある方は是非どうぞ。思っている以上にはまりますよ、このソフト。意外に一押し。

印刷こぼれ話

Part.2

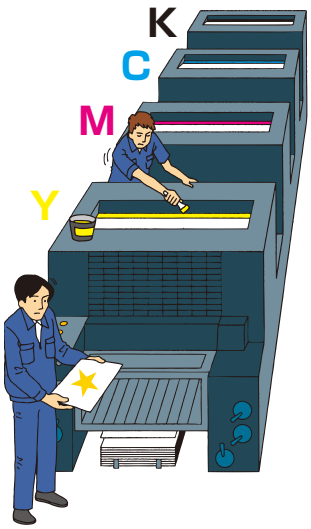
カラー印刷の仕組み
――色いろいろ

今回は、印刷の色の仕組みについてお話しします。

「たくさんの色が使われているので、何色のインクを使ってカラー印刷にしているのだろう。」

そう思われる方も多いと思います。

一般にカラー印刷と呼ばれているのは「4色印刷」のことです。「4色」とは、印刷物の基本となる4色のインクの色を指します。すなわちY（イエロー）黄色、M(マゼンタ)紅、C(シアン)青、BL(ブラック)スミ・黒です。この4つの色を組み合わせることによって、あらゆる色を作り出しているわけです。プロセスカラーとも呼ばれます。



墨版（ブラック）

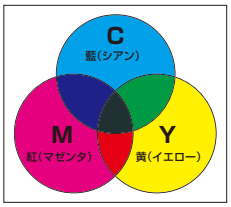
藍版（シアン）

紅版（マゼンタ）

黄版（イエロー）

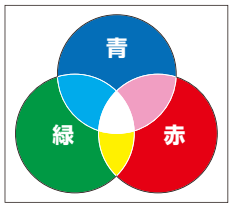
例えば、Y=黄とC=青をかけ合わせて緑をつくります。YとCの度合いを調整して、思い通りの緑にします。絵の具を混ぜ合わせるのと同じです。CMYを色の三原色といい、これらを同比率で混ぜ合わせると、黒になります。これを「減色混合の原理」といいます。

色の3原色



印刷物等の色の３原色(C,M,Y)
白を基盤に色を重ねて段々暗くなって行きます。

光の3原色



テレビ等の光の３原色(R,G,B)
黒を基盤に光を重ねて段々明るくなって行きます。

どうやってカラー印刷してるの？

右の写真すなわち前号の『遊文通信』は、どのように印刷されたのでしょう？

これを印刷しようとした場合、4色（CMYK）の刷版というものを作成し、印刷機にセットし、印刷します。

C版、M版、Y版、K版を重ね合わせると、カラーになる仕組みです。

上記の様に、色を掛け合わせ（正確には、網点と呼ばれるとても小さな点が集まり）、カラー印刷物は出来上がります。

カラー印刷は高い？

「モノクロ印刷に比べて、カラー印刷にすると、どうしてこんなに高くなるの？」

当然です！上記を読んだ方はお分かりですね。

カラー印刷（4色）は、モノクロ印刷（1色）に比べて4倍の価格になるはずです。

でも印刷代は、その他にも、紙代、制作費、製本費などなどありますので、単純に4倍にはなりませんが…

今月の一押し本

みなさんこんにちは！新旧問わず、私キパノスケのまったくの主観に基づき、お勧め本をどんどん紹介させていただきます。ご感想などお聞かせいただければ幸いです。

真山　仁『プライド』新潮社 ¥1,470

今回は少々硬派路線で、経済小説をご提案したいと思います。真山仁さんの短編集『プライド』。外資系ファンドのMAの裏側を描いた『ハゲタカ』の著者でもあります。

理不尽な「事業仕分け」に対抗する農水官僚「コメ博士」の痛快な活躍と矜持を書いた「一俵の重み」をはじめ、真摯に働く人間であれば、心を打たれることが間違いない短編が６篇収録されています。あっという間に読めてしまうので、ご出張のおともに是非どうぞ！

個人的には政治の駆け引きと裏舞台、そしてシニカルで究極のどんでん返しが待っている「暴言大臣」が一番面白かったですが、みなさまはいかがでしょうか？（キパノスケ）

真っ盛りの
スタッフシリーズ

おのちゃんがイク!! VOL5

伝説の営業マン おのちゃん（第1話の2）

おなじみの「おのちゃん」、現役でありながら伝説を生み続ける彼を小説風に紹介します。
（この小説はフィクションです）

遊文舎 企画営業部
小野 健一（34歳）

営業車を運転する坂辺に小野は助手席から問いかけた。
「今からまわるところは、どのような業種のクライアントなんですか」
「ん、あぁ、あそこなぁ、ゆうたら食品メーカーや、自社で販売部門も持ってなかなか中堅にしてはがんばってはるよ、知らんかな「大ちゃんうどん」て…。最近スーパーでもよう売っとるやろ」
「いえ、ちょっと知らないです」
「ほんまか…なんやったら食うて行くか？」
「いえいえ、結構です」
「なんや、腹へってへんのか」
「そ、そうではないです…」
翔文館印刷から車で約15分ほどの距離に多々美屋食品株式会社がある。
今年で創業25年を迎える業界では中堅クラスの食品メーカーで、ここ大阪市都島区に本社を構え、従業員は社員、パートも含め約100人。いわゆる“粉物”がメインの食品会社で近年のヒット商品は「大ちゃんうどん」。国内産小麦を使用した生のうどんが真空パックされ、特製の甘ダレがセットになっており2食入りで222円（税込み）。
パーキングに車を入れ、坂辺と小野は多々美屋食品の受付へと入っていった。
「あぁ、坂辺さん、いらっしゃい」
受付嬢の高本真理子が笑顔で迎えた。坂辺が多々美屋食品を担当して約7年。高本は3年前に入社して以来ずっと受付業務をしており、坂辺の事はよく知っていた。
「毎度、こんちには…虎吠部長居はります？」
「あぁ、おったかなぁ……ちょっと聞いてみますね」
高本は受話器を片手に内線番号を押した。見慣れない小野の姿が気になっているのか何度も小野に視線を向けていた。
「高本です。虎吠部長宛てに坂辺さんが来られてますけど居はります？……あ、そうですか、分かりました、は〜い。…坂辺さんごめん、ちょっと近くに出てはるみたいやねん、どうしましょう？」
「あ、ほんまですか、どないしよかな…」
「なんやったら待っときはります？、多分すぐ帰ってくると思いますけど」
（つづく）

次回予告　真っ盛りのスタッフシリーズ
次回「おのちゃんがイクVOL6」は“伝説の営業マンおのちゃん第1話の3”（予定）※内容はやむを得ず変更になる場合がございます。ご了承ください。

デザインから印刷までのトータルサポートサービス

カタログ印刷、冊子印刷、チラシ印刷、名刺印刷まで。大阪No.1のスピード印刷サービス！

最短3時間で印刷！ 名刺20枚 ¥1,500〜
すぐスール.com 誕生!!
デザインラボ

1 すぐスールではお客様にご用意いただいた素材をもとに印刷データの作成（デザインの作成）を行っています。まずはお使いになる写真や文字情報などをご準備ください。
2 お客様のご準備が整いましたら原稿はメールやFAXでお送りいただいても構いませんが、遊文舎にご来社いただきデザイナーと直接打ち合わせていただくことをお勧めします。
3 いよいよデザイン開始です。完成したデザインをメール（画像）で送信しますので修正や変更があればご指摘ください。校正（修正）は3回まで無料で行います。
4 校了後、印刷→加工→納品
※校了後の内容変更はお受け出来ません。見落としがないように、サービス内容・価格・営業時間・住所・電話番号など、入念にチェックしてください。

完全データ作成、デザインおまかせください

印刷通販サイトすぐスールの価格設定は、お客様が印刷用データを作成されている想定となっております。
しかし、そこはプロに頼みたいお客様も多いはず。品質アップと時間節約の一挙両得を実現する〈すぐスールデザインラボ〉をぜひご活用ください！

納期や料金他、詳細は下記までお問い合わせください
【すぐスールフリーダイヤル】いんさつすぐよ
TEL: 0120-132394

原稿作成から相談したい方
より効果のある印刷物を作成したい方
株式会社 遊文舎の
企画営業部までご連絡ください。
TEL: 06-6304-9325
（担当：坂根・苗村）
お気軽にご連絡ください

編集後記

第5号の『遊文通信』はいかがでしたか？
次回からは少し模様替えをしようか、とか人気コーナーは継続しようかとか…
思い切って題字まわりの色や文字を替えようかとか10号記念号からにしようか…
う〜ん、印刷会社だけに思案（シアン）中です。わかるっかな〜 （Dandy）